

呉市立蒲刈中学校 第2学年 総合的な学習の時間 学習指導案

単元名： 大人へのパスポート～地域社会に貢献する起業に挑戦～

指導者：呉市立蒲刈中学校 T1 佐々木裕介 T2 林晃也 T2 上田真梨子 T2 松本明日香

- 1 日時 令和3年12月2日（木）第6校時
- 2 場所 2年教室
- 3 学年 第2学年（男子3名，女子5名 計8名）

単元について

本中学校区の総合的な学習の時間は、「生き方学習」と「ふるさと学習」を意図的・計画的に配列している。今年度は、コロナ禍の影響により、「生き方学習」の要として、職場体験学習を実施することはできなかった。そこで、他校の取組や企業が行うキャリア教育支援を参考に、起業プロジェクトを設定し、挑戦することとした。課題解決に向けた探究的な活動とするために、働くことの意味と地域貢献の追求を探究課題として設定し、課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現、といったそれぞれの活動の充実を図った。この一連の学習活動は、働くことの意義や働く人たちの思い、ふるさと蒲刈のために自分たちができることについて探究し、「自己の生き方を考える力」と「協働的に関わる力」の育成をねらいとしている。

本単元は、本質的な問い「働くとはどういうことだろうか？」を基に構想した。第1次では、「10年後の自分をイメージし、やってみたい仕事について考える」ことを探究課題に設定し、世の中にある仕事、職業、資格について調べ、個人の興味ある仕事について発表した。第2次では、「働く目的、会社の役割について考える」ことを探究課題に設定し、仕事のやりがい、自分たちの地域の仕事、会社の役割、会社の組織について調べ、社会にある様々な会社を紹介し合った。そして第3次では、第1次と第2次で学習したことを活かした発展的な学習内容である「起業プロジェクトに挑戦する」ことを探究課題に設定し、企業理念、事業内容、起業する会社に必要な部署、商品開発、宣伝方法、利益の使い道、地域貢献などの様々な企画を生徒が考え、探究し、地域の活性化の取組につなげようとしている。

一連の学習を通して、生徒が各教科等における見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究し、自己の生き方を問い続けることで、本中学校区で育成を目指す資質・能力の育成につながると考えている。

調査結果からみる課題

6月に実施した学習意識等調査における、本学級の生徒の実態は以下の通りである。

	内容	肯定的な評価		
		よく	やや	計
現 自 力 己 実	将来の夢や目標をもっています。	87.5	12.5	100.0
	将来の夢や目標は、かなうと思います。	25.0	37.5	62.5
課 題 発 見 ・ 解 決 学 習	授業では、課題を解決するために、進んで、資料を集めたり取材をしたりしています。	12.5	25.0	37.5
	授業では、課題を解決するための情報を集める前に、どのような方法だと必要な情報を集めることができるのかを考えています。	12.5	25.0	37.5
	授業では、調べたことなどを、図、グラフ、表などにまとめています。	25.0	25.0	50.0
	授業では、自分の考えを積極的に伝えています。	37.5	25.0	62.5
	授業では、実際にものを使ってやってみたり、地域や自然の中で学習したりするなどの体験活動をしています。	25.0	25.0	50.0

すべての生徒が、将来の夢や目標をもっていると肯定的に回答している。これは、これまでの生き方学習、特に、自分の夢や目標を保護者や全校生徒の前で意見発表した立志式での取組による成果と考える。一方で、将来の夢や目標がかなうと考えている生徒は 62.5%であり、夢や目標をかなえるための具体的な道筋を描けていない生徒も数名見られた。

課題発見・解決学習に関わる項目では、情報の収集の質問内容で肯定的な評価が 37.5%と低い結果となった。この結果から、これまでの総合的な学習の時間の情報を収集する場において、自らが主体的に情報を収集する機会が少なかったことが考えられる。また、整理・分析したり、まとめ・表現をしたりする場においても、肯定的に回答している生徒が約半数であった。

指導改善のポイント

自分がやりたい仕事や世の中の仕事について調べ（1次）、働く目的や会社の役割について探究し（2次）、起業プロジェクトに挑戦する（3次）という3次で単元を構成した。各次ごとに、課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現を行うことで、自らの考えや課題が更新され、探究の過程を繰り返し深めることができた。情報収集や整理・分析の活動では、地域おこし協力隊、中国新聞社記者、助産師、和菓子職人など様々な職種の方々をお招きし、「夢や仕事」「職業講話」などについて生の声を生徒に伝えることにより、情報収集の充実を図った。まとめ・表現では、iPad の特性を生かして、写真やイラストを取り入れ、調べた内容を分かりやすくスライドに表し、発表した内容の相互評価を行った。これらの活動を通して、より深い学びとなるようにした。

本時では、第3次の「起業プロジェクトに挑戦する」の事業内容（計画の立案や取組の成果等）を部署ごとに報告し、仲間やゲストティーチャーに分かりやすく伝える発表会を行う。その際、発表会に参加されたゲストティーチャーから受けたアドバイスをもとに、思考スキルを活用し、自分たちが地域のためにできることを発見することで「主体的な学び」となるしかけを組み込む。

単元の目標と評価規準

単元の目標

社会にある仕事や、その仕事に取り組む人々の思い、会社の役割、起業等に関して課題を設定し探究することにより、働くことの意味と自分の生き方との関わりに気づき、今後の学習や生活の在り方を積極的に考えることができるようにする。

単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	自己の生き方を考える力 協働的に関わる力
<p>① 働くことの意味について、収入を得るため以外にも、自分自身や他人のためになっていること、地域社会のためになっていること、それらは自己の成長とともに見いだすことができることに気付いている。</p> <p>② 収集した情報を手際よく分類し、分かりやすい方法で表している。</p> <p>③ 働くことの意味を考える学習が、将来の職業選択のみならず、今後の自分自身の生き方に深く関わっていることを理解している。</p>	<p>① 働くことの意味について、自分たちの考えと実際に働いている人々との考えの隔たりから、自分自身で課題を設定し、見通しをもっている。</p> <p>② 他者に自分の考えが伝わるように、目的に合わせて情報を分類したり、効果を意識して表現方法を組み合わせたりしている。</p> <p>③ 相手や目的に応じて自分自身の考えをまとめ、適切な方法で表現している。</p>	<p>① 課題解決に向けて見通しをもち、粘り強く取り組み、自身の活動を振り返りながら次時の活動に生かそうとしている。</p> <p>② 仕事と自分との関わりに関心をもち、今後の学習や生活の在り方を積極的に考えようとしている。</p>

指導と評価の計画

評価規準

(全 4 3 時間)


次	時	学習内容	探究の過程	知	思	自・協	評価方法
一	1	自分の将来の進路や生き方を考える 10年後の自分をイメージし、やってみたい仕事について考える	課題の設定	①		①	・ワークシート
	2	〇〇の仕事に就くために、必要な資格や進路について調べる	情報の収集 整理・分析	②	①		・ワークシート
	3	調べたことを分かりやすく伝えるための紹介文を作る		②	②		・プレゼンテーション資料
	4	〇〇の仕事を知りやすく伝えるための準備をする					
	5	職業について調べたことを分かりやすく伝える（発表会）	まとめ・表現 ↓		③	②	・発表
二	6	なぜ人は働かなければならないか、働く目的について考える（ロイロノートのシンキングツール活用）	課題の設定	①			・ワークシート
	7	職業の特徴を考え、自己の将来に役立てる（推理ゲーム）	情報の収集 整理・分析		①		・ワークシート
	8	過去の職場体験の映像から地域の事業所や仕事について知る				①	・振り返りシート
	9	社会にある多様な職業を知り、会社の役割を発見する		②	②		・プレゼンテーション資料
	10	会社（職業）の組織図を調べて、会社の中での役割を発見し、発表する	まとめ・表現			③	・発表
	11 12	中国新聞出前授業 職業人の講話を聞き、自己の進路の参考に にする	情報の収集 ↓	③		②	・振り返りシート
三	13	起業プロジェクトに挑戦 起業理念について考える どんな会社になりたいのか起業する会社の目的を考える	課題の設定			①	・ワークシート
	14	起業プロジェクトに挑戦する 事業内容を考える 何をやる会社なのか考える		①			・ワークシート
	15	起業プロジェクトに挑戦する 会社の組織をつくる どの部が必要か考える		②			・ワークシート

16 17	事業内容を決定する 商品のデザインを考える	情報の収集 整理・分析	②	①		・ワークシート
18 19	試作品を作る 試作品を作ることで生産性, 効率について考える			②		・行動観察
20 ～ 25	商品を作る 役割分担をして担当を決めて商品を製作する			②		・行動観察
26	販売の準備をする 販売ブースを設置し, 販売活動の練習をする			②		・行動観察
27	販売活動をする	まとめ・表現		③		・行動観察
28	振り返りをする 上手くいったこと, 工夫すればよかったことを部ごとにまとめる		③		②	・振り返りシート ・ワークシート
29 30	追加注文の商品を作る			②		・ワークシート
31 ～ 34	各部署の取組をまとめる 発表会に向けてプレゼンテーションの準備をする 発表原稿を考える	整理・分析	②	②		・プレゼンテーション資料
35 本時	事業内容の実践報告をする(発表会) ゲストティーチャーからアドバイスを受けて, 事業内容を改善し, 地域貢献につなげる	まとめ・表現		③	①	・発表 ・ワークシート
36 ～ 38	商品の改良をする ゲストティーチャーから受けたアドバイスを参考に商品を改良する	情報の収集 整理・分析		②		・行動観察
39 40	販売活動をする	まとめ・表現		②		・行動観察
41 42	利益の使い方を考える 利益を地域に貢献できることはどんなことか考える		②			・ワークシート
43	自分の将来と地域の将来について考える		③		②	・ワークシート ・振り返りシート

本時の学習

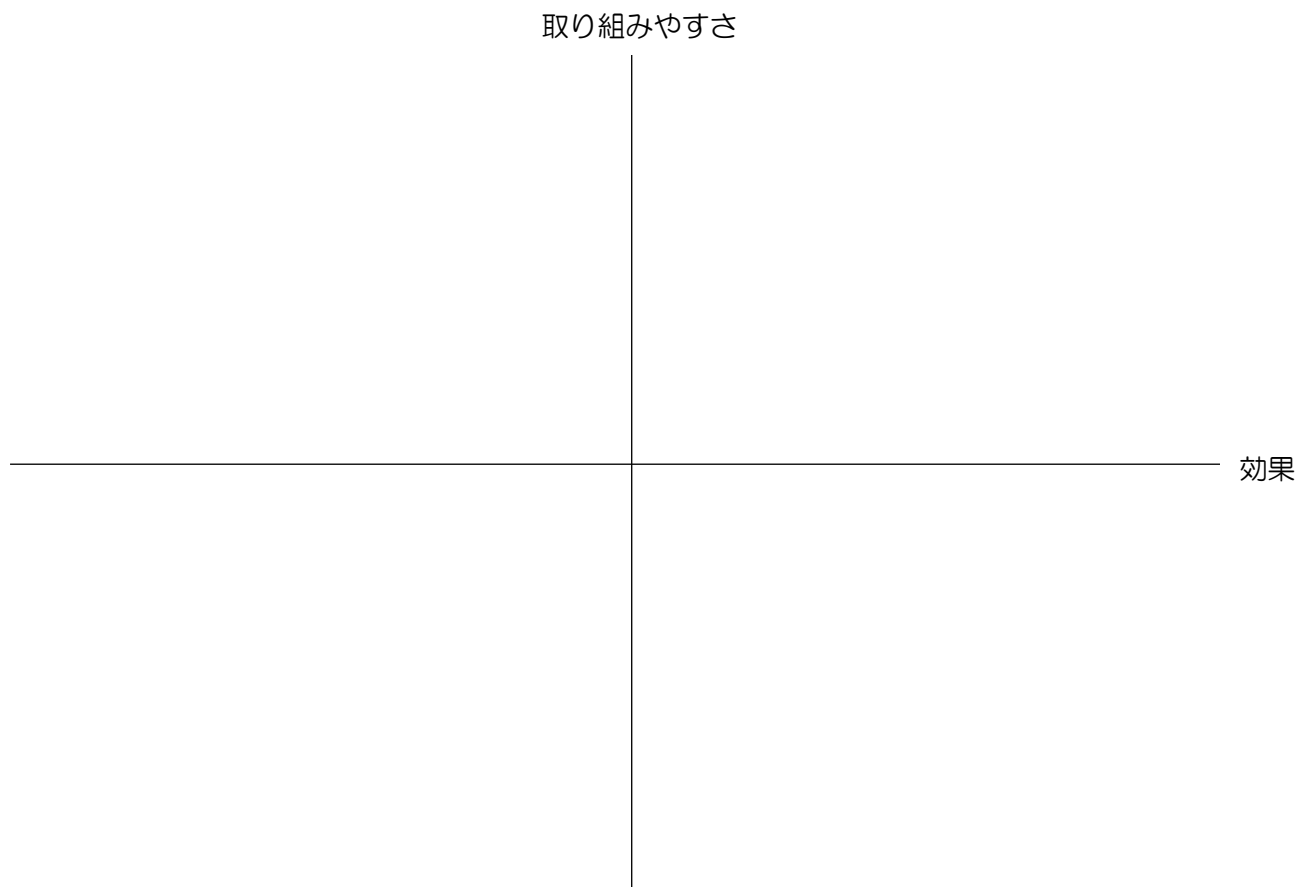
- (1) 本時の目標 事業内容の実践報告を通して他者に自分の考えを伝えるとともに, ゲストティーチャーからアドバイスを受け, よりよい事業内容に改善することができる。

(2) 本時の学習展開

学習活動	指導上の留意事項	評価規準	評価方法
1 知っておこう（5分） 地域貢献が目的であることを知っておこう			
<p>○ゲストティーチャー（地域おこし協力隊・桑田恵輔さん）に挨拶をする。</p> <p>○社長挨拶 「Kam Com Company」の企業理念、企業方針等をゲストティーチャーに説明する。</p>	<p>○地域おこし協力隊の桑田恵輔さんを紹介する。</p> <p>○地域貢献が目的であることを補足する。</p>		
<p>めあて 事業内容の実践報告をし、ゲストティーチャーからアドバイスを受けて事業内容を改善し、地域貢献につなげよう！</p>			
2 確かめよう（20分） 事業内容を実践報告し、確認しよう			
<p>○事業内容を5つの部ごとに報告 企画部・・・どのようにして商品を考案したか 製造部・・・どのように商品を作ったか 経理部・・・商品の値段の考案・資金計画をどのように行ったか 広報部・・・商品をどのように宣伝したか 営業部・・・商品をどのように販売したか</p>	<p>○これまでの取組について、iPadを活用し、プレゼンデータを基に説明させる。</p> <p>○実際の商品や販売活動等で用いたものを掲示する。</p>	<p>○相手や目的に応じて自分自身の考えをまとめ、適切な方法で実践報告ができている。(思③)</p>	<p>○発表</p>
3 深めよう（20分） さらなる工夫を発見し、地域貢献につなげよう			
<p>○ゲストティーチャーから、事業内容についてのアドバイスを聞く。</p> <p>○アドバイスを受けて、自分たちができる「さらなる工夫」を考える。</p> <p>○すぐにできそうな案と効果的な案を図で示して実践の優先順位を決める。</p> <p>○発表する。</p>	<p>○みかんの出張販売の時の様子の写真や動画を視聴させ、自分たちが考案・制作した「みかん農家を応援するシール」が実際に地域に貢献していることを実感させる。</p> <p>○「みかん農家を応援するシール」「KAMAGARI HAND GEL」「カラーサンドアート小瓶」の商品改良・販売方法・宣伝方法の工夫について考えさせる。</p> <p>○思考スキルを活用する。</p> <div style="text-align: center;">  </div>	<p>○課題解決に向けて見通しをもち、粘り強く取り組み、これまでの自身の活動を振り返りながら「さらなる工夫」を基に、次時の活動に生かそうとしている。(自・協①)</p>	<p>○ワークシート</p>
4 振り返ろう（5分） 今日の授業を振り返ろう			
<p>○振り返りシートに記入する。</p> <p>○ゲストティーチャーにお礼の挨拶をする。</p>	<p>○今後、自分たちが実践することを決定し、次時の予告をする。</p>		

2年 名前（ ）

地域おこし協力隊・桑田恵輔さんからアドバイスを受けて、自分たちができることを下の「取り組みやすさ」と「効果」のグラフの図に、示してみよう。また、さらなる新しいアイデアも示してみよう。



優先順位1～3に事業内容の改善点と理由を記入しましょう。

優先順位	事業内容の改善点	理由
1		
2		
3		

成果と課題

【成果】

- ・コロナ禍の影響によって職場体験が中止となり、総合的な学習の時間の単元構成を大幅に変えることになった。「起業プロジェクトに挑戦」という核となる課題を設定し、課題発見・解決学習のスパイラルに沿って、ねらいにせまることができた。
- ・生徒が将来就きたい職業について考え、その仕事に就くための資格や様々な業種の会社の組織について調べ、自分たちで起業し企画や商品開発を行った。これらの取組により、「自己の生き方を考える力」と「協働的に関わる力」の育成を常に意識した学習をすることができた。
- ・生徒1人1人がタブレットを活用し、企画部、製造部、経理部、広報部、営業部の活動内容等、自身の取組を画像や動画を使って工夫してゲストティーチャーに説明することができた。生徒は自分の考えをもって表現することができた。学習した内容を他者に伝えることで、表現する力の育成の場となった。＜思考・判断・表現＞
- ・ゲストティーチャーとして、地域おこし協力隊の方と連携した。ゲストティーチャーが地域の方々と連携してくださり、生徒と教員だけでは行えない地域の方々（地域のみかん農家）とのつながりをもつことができた。これにより、生徒は他者の生き方にふれながら学びを自己の成長へと結び付けることができた。＜自己の生き方を考える力＞
- ・生徒のワークシートや振り返りシートの記述には、収入を得るため以外にも自分自身や他人のためになっていること、地域社会のためになっていること、将来の職業選択のみならず、今後の自分自身の生き方に深く関わっていること等の内容が見られ、よりよく生きようと考えていた。＜自己の生き方を考える力＞
- ・生徒全員に役割（社長、企画、製造、経理、広報等）があり、学びの経験を社会の形成者としての自覚につなげることができた。＜協働的に関わる力＞
- ・地域のみかん農家の方々やお土産屋、まちづくりセンターから「みかん農家さんを応援するシール」の注文を受けることで、生徒は自分たちの取組が周囲の方々に注目されていることに達成感と充実感をもった。生徒が書いた「みかん農家さんへの感謝の手紙」からは、積極的に社会参画しようとする姿が見られた。＜協働的に関わる力＞

生徒が書いた「みかん農家さんへの感謝の手紙」

みかん農家さんへ

この度は私たちの作成した「みかん農家さんを応援するシール」を購入していただきありがとうございます。地域のPRのために蒲刈中学校2年生が案を出し合って作成したシールです。このシールを購入し地域のPRに協力して下さってとても嬉しいです。もし、よろしければ今後もこのシールを使っていただくと嬉しいです。売上金は今後の地域貢献に使わせていただきます。

呉市立蒲刈中学校第2学年一同

【課題】

- ・「生き方学習」よりも「ふるさと学習」が中心になっている。
→単元の終盤では、「生き方学習」の視点での学習を行う必要がある。「ふるさと学習」は、第3学年の単元「蒲刈へのメッセージ」で実施するので、さらに発展できる可能性がある。
- ・地域貢献が生徒の発表の中では、あまり表現できていなかった。（社長挨拶では触れられていた。）
→事業内容の報告では、製造方法や取組の説明だけでなく、地域貢献に対する個々の思いが表現できると良かった。
- ・評価規準「A 聞き手の顔を見て分かりやすく報告できている B 原稿を覚えて報告できている」の違いが分かりにくかった。
→タブレットを活用するスキルなのか、自分の言葉で説明するスキルなのか、評価規準を見直す必要がある。
- ・生徒がゲストティーチャーに事業内容を説明する際に、聞き手の方を向いて発表できていなかった。
→会議形式のようにコの字型に机を配置して発表を行う等の工夫が考えられる。（ゲストティーチャーとモニ

ターの位置の考慮)

・発表の際、文字と写真だけの説明になっていた。また、画面を拡大する時の口頭での説明がなかった。
→実際の商品を提示するとさらに良かった。聞き手の立場を意識するための工夫が必要である。

